

341) もしもあの娘の

お嫁に行ったあの娘のことが 今までずっと気になっていた  
昨日始めて便りが着いて 僕はとっても嬉しかったよ  
妹みたいに可愛がってた あの娘の白いウエディングドレス  
記念写真の葉書の中で とても綺麗で眩しかったよ

恋人同士じゃなかったけれど あの娘の笑顔好きだったから  
お嫁に行った6月からは 言いようもなく寂しかったよ  
もしもあの娘の父親だったら ぽっかり空いた心の虚を  
あかちょうちん 赤提灯のいちばん隅で ひとり地酒でまぎらしたろう

もしもほんとの妹だったら どんな言葉でおくったろうか  
もしもほんとの恋人だったら どんな苦しみ感じたろうか  
別れはいつもこんなものだと 悟ったような僕でいるのは  
恋から逃げた臆病男の ずるさのためといえるでしょうか

少しばかりのジェラシーもある 言葉でいえぬ哀しみもある  
どこかであの娘を待ってるような うしろめたさを感じているよ  
男と女どんな出逢いも どんな別れも小さなドラマ  
ためらうように吹いてく風に あの娘をそっと思い出したよ

さかりをすぎたサルビアの まっ赤な花が燃えている  
あの娘の便りくりかえし 何度も読んで秋がゆく